

第9回SIMI全体会参加者アンケート

質問/回答者種別	1. SIMIに参加する目的や期待すること	2. 実際感じていることや問題と思うこと	3. より良くしていくための提案
事業者 (非営利)	・日本でのインパクト投資の推進 ・様々なステークホルダーの共通言語を作成すること ・透明性の高まり	今回初めて参加したので、問題は分からない。現状、SDGsが話題になってきているので、これとの連携をもっと高めたいのではないかと。	各セクター、分野ごとのノウハウの共有をさらに活発化させる。例えば、NPO分野であれば社会課題に関するノウハウ、営利分野では指標を測るノウハウなど
事業者 (非営利)	・SIMIに関わる動向の全体像の把握、情報発信 ・SIMIの関係者間のネットワーク作り ・社会的インパクト・マネジメント推進時の困りごとにアドバイスがもらえる様な仕組み作り ・SIMIの普及推進に向けた認知向上活動	これまではフレームワーク作りが中心だった様なので、具体的な事例（日本、海外）の発信（何がよく何がダメだったかの整理も含む）。	事例の一貫として効果の段階を追った情報の整理と発信
事業者 (営利)	評価する時の指標の標準化や横軸展開	・やはりまだまだCSR的にやっているイメージが強くて事業化して発展していくのが難しい。社内での理解が得られない。 ・他のWGメンバーをもっと知りたい。仲間づくりの場の提供が欲しい。	・認知を高めて欲しい。 ・アワードの活用、オンチャレにする
事業者 (営利)	・社会的インパクト、ソーシャル・グッドを達成するために、新たな本質的な視点を手に入れることで、より本質的な企業としての思考&行動を行えるようになること。 ・様々なアクターとの出会い、コラボの場としての機能	・社内での同意が得づらいこと（どうやったらできるか？）、自らのリーダーシップやコミュニケーションをしっかりと行うこと。 ・抵抗感ある人の意見に耳を傾けて少しでもこちらを理解してもらう努力が必要。社会の声が届いて心が折れないように、そうし続けられる勇気を私たちが持たないといけない。	SIMI自体の運営においてもうまくファイナンス思考を入れて、インパクトを大きくしていく。
事業者 (営利)	・社会的インパクト評価の標準化と普及 ・幅広い層が実際に使える評価ガイドラインの提供	・ツールは揃ってきている。 ・使い易さや実際に使えるか、情報にリーチできるかが、これからの課題	外に向けた情報発信に力を入れても良いのでは。
事業者 (営利)	社会的インパクトマネジメントの手法が社会に浸透して社会課題の解決への取り組みが加速すること。	初心者向けの入門書などがあると入りやすいかも	SIMIが目指す社会の姿、ビジョンが明確にあるといいかも。手段はいろいろあると思うが、ゴールがぶれなければいいと思います。
事業者 (営利)	・プロジェクトの成果をより客観的にはっきりとした形で評価するための情報共有。 ・社会的インパクト評価を通じた民間との連携。	認知度が低い	
事業者 (営利)	・各事業者がどう社会的インパクト評価を実践しているのか。そして同様な成果、変化が生まれているのかを知りたい。 ・この様な評価とその手法の世界的なトレンドに向かっていく方向等を知りたい。		・関心ある人がSIMIの活動にもっとアクセスしやすい様に環境を整えるといいのでは。 ・SDGsと結びつけることで事業者の関心をひきつけたり、分かりやすく共通の言語で語ることができるのではないかと。
事業者 (営利)	・自社での取り組みの中でどうインパクトを可視化していくか検討する参考とする ・関係者とのネットワークの構築 ・NPOがインパクト・マネジメントに取り組む上で、どの様な伴走支援が可能か検討する	・自身の勉強やネットワーク作りには大変役立っている ・実働部隊がおらず、手弁当なためなかなか成果が出ない。発信力が弱い ・アカデミックな部分（ガイドライン）は整備されてきているが、事例をまだ公表できていない。	・実際のNPOなどの事業者の参加を促す仕組み ・事例の公開や具体的な課題などを共有する場
事業者 (営利)	インパクト評価/マネジメントに関する情報収集	皆さん意識高く、レベル高く活動していると思います。	・インパクト評価/マネジメントは「認知」ではなく「理解」と「実践促進」が必要 ・事例は重要だが、量より質。意義、効果など文脈ストーリーが重要 ・今更かもしれないが、インパクト・マネジメントを一枚で説明できるツールキットがあると良い
資金提供者	・財団の助成金がよりインパクトを持つように財団のお金の出し方、出す相手が変わること。 ・一緒に事業をする仲間作り（気持ちの冷めないように。組織内でのインパクト思考がアレルギーが強いと冷めてくるので）。	・インパクト志向にアレルギーのある人達に恐れられている？ ・二項対立っぽくならないようにしないといけない。 ・企業のマネジメント志向とNPOをはじめとする非営利セクターの大半の人達とのメンタリティに差がありすぎてやや会話になっていない。	接点をふやす。
資金提供者	社会的インパクト評価を事業運営に活用することが社会に広まること	求心力の低下	発信力の向上 参加することで得られるベネフィットの提供
資金提供者	・インパクト・マネジメントの習得 ・世界のトレンド、日本のインパクト・マネジメントの手法や普及における現状を掴む ・どの様なアクターが携わっている/携わる余地があるか知る	・インパクト・マネジメントの成り立ちがわかりづらい ・SIMIの参加メンバーがわかりづらい	・他の領域とのつながりを明らかにする（インパクト・マネジメントの位置付け） ・インパクト・マネジメントに関するニュースを配信する ・参加メンバーの一覧を作る
評価者	社会的インパクト・マネジメントを学び、普及に貢献する。	・ハイクオリティで深い議論の積み重ねを尊敬しています。その一方で普及していく、「共通語になるノウハウを得られる」との各事業者のやる気スイッチをより入れられ様に、平易な問いの設定の（再）検討がもししたら必要なタイミングなのかもしれないと今日気づきました。 ・日本の国家的社会課題とSIMIとの関係は何か	
評価者	評価が変な風ではなく、より良く実践・活用されていく土壌をつくるため評価がPRのためではなく、透明性を高めるために用いられていくために。	WGのリソース不足	・「2030ビジョン」の策定 ・SIMIとしてのセオリー・オプ・チェンジの提示（文章中心ではなくビジュアル重視のもの）
評価者	事業評価を正しく行うことで、地域の課題解決が継続して行われ、地域が発展できる様にするため	「事業評価」の言葉だけが先行して、一般に受け入れられにくい状況にあること。	地道な活動を続けること
その他	社会的インパクト・マネジメントに関する情報収集	・「評価者」以外のセクターの関係者が異動などでSIMIからいなくなる ・現場のNPOの参加のデザイン	事業改善を前面に出したセミナー
その他	・社会的インパクト評価に可能性を感じているから ・海外からの（良い意味で）輸入物だから	・同じ価値観を持ち他分野、様々な立場の人と出会うことができる ・研究者の立ち位置がまだ模索している途中（SIMIにどう役に立てるか？ 研究的思考はどう活かせるか？）	・スプリングボードの設置（SIDの無料招待、ボランティア） ・ウェブ記事や新聞、SNSだけでなく、書籍や学術文書など海外へのインパクトも含めて一時的でなくしっかりとした成果物を。
その他	世の中の団体に社会的インパクト・マネジメントが広がること。それによってロス少なく、インパクトが生まれていくこと。	・ゆっくりだとは思いますが、その分、色んな方々を巻き込んで進んでおり、事務局の方には感謝しています。 ・お金がつくといいなと思いますが、やはり難しいのでしょうか。 ・休眠預金における社会的インパクト評価などとはある程度足並みを揃えていただかないと事業者が混乱するので、大変だと思いますがお願いしたいです。 ・インパクト投資、ESG、SDGsなどにも共通語になるといいなと思う。	
その他		・認知に関して：人数目標やセクターの設定も大事だが、外への見せ方にもっと気をつけていく方が良い。ガイドラインやスライド資料、蓄積された事例なども見せ方次第で印象が大きく変わってしまう。 ・事例に関して（その他進め方）：何を持ってインパクト評価の事例とするのか、については難しいと思うが、帰納的に決めるか演繹的に決めるのか、決め方の含意を急いだ方が良い。また進め方についても目標やロードマップの改訂ではなく先に進める。	
その他	社会的インパクトを与える事業の普及。そのための標準化、ツール等の開発	・WG以外の参加メンバーの顔が見えない。その意味では今日は良い機会でした。 ・他のWGの動きがわかりにくい。 ・しっかりと参加していないと、情報についていけない。	半日くらいかけてメンバー間の交流の機会を設けてみる。
その他	・事業者、有識者とのネットワーク作り ・社会的インパクト・マネジメント/評価に関するアップデート、学びの機会	・コメンターの方々が強力に推進していった下さりと、アウトプットが色々生まれていることや、SIDが継続していることがありがたい。素晴らしい。 ・参加者が減っていることが残念（伝わっていない）。	SIMIを通じて得られる情報や活動に参加することに意義を感じてもらえる様な発信や取り組みのチューニング